

## 学位審査結果報告書

学位申請者氏名 Pai-Chun Huang

学位論文題目 Relationship between lateral guidance and complication incidence in single implant-supported posterior crowns

審査委員 (主査) 清水 博史



(副査) 中島 啓介



(副査) 近藤 祐介



### 学位審査結果の要旨

インプラント修復物の増加に伴い、合併症のインシデント数も増加している。これらのインシデントは側方ガイドと関連しているものと思われるが、それを明らかにした報告はない。本研究の目的は、シングルインプラント支持型臼歯部上部構造に付与する側方ガイドと合併症の関係について検討し、ひいてはインプラントの補綴装置に与えるべき咬合様式を見出すことである。70本の歯科用インプラントおよび補綴装置を装着した40名の患者を、犬歯誘導咬合を与えた19名の犬歯誘導群とグループファンクション咬合を与えた21名のグループファンクション群に分けた。そして、インプラントフィクスチャーの失敗、アバットメントスクリューの緩み、およびクラウン再装着の3主要合併症が生じる頻度について、それぞれ2群間で比較検討された。その結果、犬歯誘導群はグループファンクション群よりもインプラントフィクスチャーの失敗の発生率が有意に低かった。犬歯誘導群はグループファンクション群よりもアバットメントスクリューの緩みが少ない傾向が認められた。一方、犬歯誘導群はグループファンクション群よりもクラウン再装着の発生率が高い傾向が認められた。Kaplan-Meierの生存推定法により検討したところ、犬歯誘導群はグループファンクション群よりも初年度に関して合併症の発生が少ない傾向にあった。本研究におけるインプラントオッセオインテグレーションの成功率は97.2%であった。以上の結果を総合的に判断すると、臨床的にシングルインプラント支持型臼歯部上部構造における側方ガイドとしては、犬歯誘導咬合がグループファンクションよりも優れていることが示唆された、と結論付けたものである。

学位公開審査会において、主査および2名の副査より、結果の解釈と妥当性、臨床的意義および今後の課題等々について多角的に試問し、概ね適切な回答が得られた。

インプラントの咬合に関しては、側方ガイドや咬合力の側方成分等非軸方向の荷重が軸方向荷重よりも影響が大きいものと予想されてはいるが、生物学的に生体に影響があることを示した疫学的なデータはみられないといわれている。本論文はシングルインプラント支持型臼歯部上部構造に臨床的に与えるべき咬合様式を明確に示したという観点から、審査委員会では学位申請論文として価値あるものと判断した。